

“HAIR”と“ART”の融合、 それは自分らしく生きること



学校法人 阪神専修学園
ヘアラルト阪神理容美容専門学校 理事長
半田まゆみさん

関西学院大学法学部を卒業したのち、美容師免許を取得。「髪」を文化として取り上げ、『ヘアメディア論』を展開。ヘアスタイリストの育成に力を注ぎ、中国やヨーロッパ、アメリカなど国内外を問わず精力的な活動を繰り返している。

現代芸術家の鶴本昭三氏に師事。「髪」を現代美術として表現するという初の試みで、海外の展覧会からも多数の招待を受ける。その枠におさまらない行動力から、今後の理容美容業界を牽引していくリーダーとして注目されている。またエネルギッシュな講演で全国の人々に勇気と元気の後押しをし、職業理解のための講演では理容美容の仕事の素晴らしさを多くの人に伝えている。著書に『丸刈り奮闘中』（たま出版）、『自分らしくあわせになる方法』（新風舎）、『髪のコードを読む』（女性モード社）。

兵庫県尼崎市にあるヘアラルト阪神理容美容専門学校で理事長を務める半田まゆみさん。スーパーベリーショート（わかりやすく書くと“丸刈り”）がトレードマークの彼女は、学生たちから「まゆみセンサー」と呼ばれ、非常に親しまれている。

雑誌や新聞などを通しては何度も見ていたまゆみセンサーを、私が初めて実際に目にしたのはヘアラルト阪神理容美容専門学校にハロウィン・ヘアメイクコンテストの取材で訪れたときだった。まゆみセンサーを知る人たちから「ものすごい人だよ」と聞かされていた。そのユニークな風貌からして、そりゃあものすごい人なんだろうなと思っていたが、実際のまゆみセンサーは想像を遥かに超えてものすごい人だった。

コンテストに先立ち、学生たちの前に立ったまゆみセンサーは、コンテストの意義や目的、コンテストに取り組む姿勢などを、明るく楽しそうに学生たちに話した。小柄な身体はどこに秘められていたのか不思議なくらいのパワーと魅力に満ち溢れた言葉一つひとつに圧倒的なまでの説得力があった。そして、学生たちを見つめる眼差しには、学生たちへの深い愛情に加え、理容美容に対する真摯な想いと情熱が感じられた。

阪神淡路大震災で当時阪神理容美容専門学校の理事長を務めていた父を亡くしたまゆみセンサーは、32歳という若さで亡き父の後を継ぎ、理事長に就任。「やるならば自分らしく」と、スクールコンセプトの刷新に着手した。理容師・美容師の国家資格を取得させるための場所ではなく、「HAIR」と「ART」の融合を目指す若いヘアアーティストを育成する場所にしたいと強く願い、「HAIR」と「ART」を組み合わせた造語「HAIRART（ヘアラルト）」を学校名に新たに冠した。単に技術を提供するのではなく、人間としての根源的な表現ができるようなヘアアーティストを育成する、それは当時としてはまったく新しい考え方だった。誰もやっていなくても、それが自分らしさだから。そんな気持ちから「HAIR」と「ART」の融合を目指す歩みをスタートさせた。

そして、学生たち一人ひとりと触れ合う中、自身の目で、肌で、心で、精神で、魂で感じてまゆみセンサーが見つけたのは、まったくもって簡単なことだった。クリエイティブとは、自分らしく生きること。自分らしさを表現するのって気持ちがいいと実感すること。ただそれだけ。でもそのことさえ学生たちに伝えられたら、学生たちは卒業後、たとえ理容美容の仕事を決めても、どんな生き方を選択しようとも、自分らしく生き

ていける。まゆみセンサーはそう考えた。

まゆみセンサーのポジティブな考え方、生き方は世代を問わず、多くの共感を呼ぶ。ここでまゆみセンサー一流の夢を叶える3つのステップを紹介しよう。

- 1.信頼できる人に自分がしたいと思っていることを口に出して語る
- 2.チャンスをもたらしたら怖気づかずに勇気を持って挑む
- 3.結果がどうであれ、チャンスをくれた人に感謝する

「難しく考えず、まず3ステップをやってみて。そうすると夢は実現してゆきます」とまゆみセンサーは語る。「どうせ無理とか、私なんてと考える人がいるけれど、そんな人は自分自身で夢やチャンスを潰しちゃってるんです。せっかく生まれてきたんだから、思いきり伸び伸びと、勇気を持って、自分らしく生きなくっちゃ」

まゆみセンサーは言いたいこと、言わなければならないことをハッキリと口にする。言いたいことを言う人間はたくさんいるが、愛情と情熱と豊かな経験に基づいて言いたいことを言える人間はあまりいない。

そんなまゆみセンサーの今の夢はというと、理容美容業界をより働きやすい環境にして、若い人や他業種の人からも憧れられる業界にすること。理容美容業界の素晴らしさをもっと認識してもらうこと。そして、夢を実現させるために、朝から晩まで学生たちと共に理容美容に向き合っている。

まゆみセンサーは偉ぶらず、誇らない。称賛が彼女の口元から微笑を奪うことはなかったし、忙しさが彼女の心臓から優しさを消し去ることもなかった。これまで、そしてこれからもまゆみセンサーはまゆみセンサーらしく生きていく。だから、私はまゆみセンサーの姿を見るたび、いつも思う。カッコよくて、素敵な女性だな、と。



<http://www.handa-mayumi.jp>
半田まゆみ公式サイトではメディア情報などを随時配信。写真は半田まゆみ公式サイトトップ画面。